

文化庁メディア芸術祭 2月3日から開催

メディア芸術の今を体感できるライブなフェスティバル

文化庁、国立新美術館、CG-ARTS協会は「第13回文化庁メディア芸術祭」を2010年2月3日から14日まで、国立新美術館（東京・六本木）にて開催します。

アート、アニメ、映像、ゲーム、Web、マンガなど、54ヶ国・地域の2,592作品から選ばれた受賞作品と審査委員会推薦作品を約180点紹介します。実際に触れて体験することができる作品を数多く展示するほか、受賞者や審査委員らが出演するシンポジウムや、国内外のアーティストらが自身の作品について語るプレゼンテーションなどを開催し、「メディア芸術とは何か？」を体感できるライブなフェスティバルを目指します。

さらに「学生CGコンテスト受賞作品展」、表現のための新技术を紹介する「先端技術ショーケース」、海外のメディア芸術の祭典を紹介する「Media Art in the World」、ミュージックビデオを学生が共同制作するワークショップ「学生MVコラボレーション」、東京都現代美術館で開催する「サイバーアーツジャパン アルスエレクトロニカの30年」など、会期を通して多彩なイベントを予定しています。

1997年から始まった文化庁メディア芸術祭は、回数を重ねるごとに海外からの応募も増加し、海外では「Japan Media Arts Festival」として知られ、アジアを代表するメディア芸術の祭典に成長しています。

*** 2月2日（火）の15時からプレス向け内覧会を予定しております。詳細は別紙をご覧ください。**

メディア芸術祭5つの見どころ

1. アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなど、今年を代表する作品が一堂に集まる。
2. 自然、環境、歴史、身体などを題材にした多様な受賞作品を通して、メディア芸術の最先端を体験できる。
3. 欧米やアジアの代表的なフェスティバルの優秀作品を通して世界のメディア芸術を知ることができる。
4. 会期中に100以上の多彩なジャンルの映像作品が連日上映され、映像フェスティバルとしても楽しめる。
5. 展示だけでなくシンポジウムやライブ、プレゼンテーションなどを通して、作家や創り手たちにあえる。

[第13回]文化庁メディア芸術祭 開催概要

会期 2010年2月3日（水）～2月14日（日） *9日（火）休館
10:00～18:00 金曜は20:00まで（入館は閉館の30分前）

会場 国立新美術館 企画展示室 2E（東京・六本木）

観覧料 無料

URL <http://plaza.bunka.go.jp/>

主催 文化庁メディア芸術祭実行委員会
（文化庁・国立新美術館・CG-ARTS協会）

問合せ CG-ARTS協会内「文化庁メディア芸術祭事務局」
フリーダイヤル 0120-45-4536
<http://plaza.bunka.go.jp/q/>



© Lawrence MALSTAF

この件に関する問合せ先

CG-ARTS協会 広報 篠原・千葉 広報分室 友野・安藤（ブランデックス・ジャパン） TEL 03-3564-2361
東京都中央区京橋 1-11-2 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 <http://www.cgarts.or.jp/contact/>

A1. 文化庁メディア芸術祭 受賞作品展

世界 54 ヶ国・地域の 2,592 作品から選ばれたアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの優秀作品約 180 点を紹介。部門ごとに受賞作品と審査委員会推薦作品を展示します。時代とともに変わり続けるメディア芸術の今を体感できる展覧会です。

■アート部門

アート部門は応募作品の約 4 割が海外からであり、国際化が進んでいます。今回は「自然と人間の関係」や「メディアと身体性」などをテーマにした体験型の作品が選ばれています。
インタラクティブアート (10 作品) / インスタレーション (10 作品) / 映像 (10 作品) / 静止画 (10 作品) / Web (10 作品) / パフォーマンス (5 作品) 【合計 55 作品】

■エンターテインメント部門

テクノロジーの進化や社会環境の変化は、エンターテインメント作品にも大きな変革をもたらしています。ジャンルの枠組みを乗り越え、面白さだけでなく魅力と可能性を持った作品に出会うことができます。

ゲーム (17 作品) / 遊具 (3 作品) / 楽器 (1 作品) / CM (8 作品) / TV (1 作品) / MV (5 作品) / キャラクター (4 作品) / Web (10 作品) 【合計 49 作品】

■アニメーション部門

個人制作の短編アニメーションから、劇場公開やテレビシリーズの長編アニメーションにいたる多様なジャンルのハイレベルなアニメーション作品を上映。絵コンテや設定資料など制作過程を知ることができる貴重な資料も展示します。

劇場公開 (3 作品) / TV (11 作品) / 短編アニメーション (23 作品) / Web (1 作品) 【合計 38 作品】

■マンガ部門

今回選ばれた受賞作品は、歴史、自然、SF など題材はさまざまですが、いずれも人間の深層を丁寧に描いた作品ばかりです。作者直筆の精緻な原画を展示するほか、作品を読むことのできる閲覧コーナーもあります。今年は初めて海外の作品が奨励賞を受賞しています。

ストーリー (25 作品) / コマ (4 作品) / Web (5 作品) / 自主制作マンガ (4 作品) / その他 (1 作品) 【合計 39 作品】

A2. 学生 CG コンテスト 受賞作品展

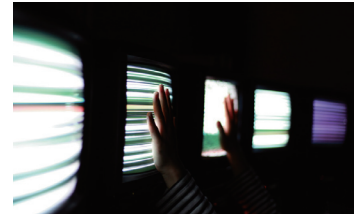
メディア芸術分野の登竜門として定着している「学生 CG コンテスト」。静止画、動画、インタラクティブの 3 部門に応募があった 1,173 作品から選ばれた優秀作品を展示。学生ならではの発想と情熱で作られられた作品群をご覧ください。表彰式は 2 月 6 日(土)11 時より会場内にて開催します。[主催：CG-ARTS 協会]

A3. 先端技術ショーケース

先端技術がアートやエンターテインメントとむすびつき、表現の可能性はさらに広がっています。先端技術ショーケースでは科学と文化の融合を目指す研究者やアーティストの創造的な試みを紹介します。[主催：文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構・国立新美術館]

A4. Media Art in the World

世界で新しく生まれ、成長し続けているメディア芸術の祭典を紹介。世界の動向を知ることで、日本のメディア芸術とは何なのかを改めて考え、明らかにしていこうという試みです。



© 2009 WADA EI. All rights reserved.



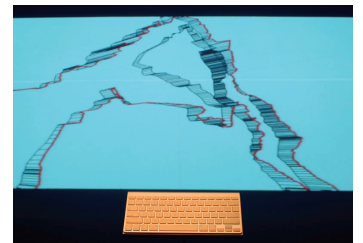
© 岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえろ ©2008 NBGI



©Claudius Gentinetta



© 五十嵐大介 / 小学館 IKKI



© 山口 崇洋

B1. 文化庁メディア芸術祭 映像作品上映

メディア芸術祭は映像フェスティバルとしての側面もあります。劇場公開アニメーションや短編アニメーション、アート映像、ミュージックビデオ、VFX、CM、など多彩なジャンルの映像作品を上映。アヌシー国際アニメーション映画祭や SIGGRAPH など、海外フェスティバルのプログラムも充実しています。

- アート部門 映像作品 (10 作品)
- エンターテインメント部門 映像作品 (14 作品)
- アニメーション部門 短編&劇場公開作品 (38 作品)
- 海外フェスティバル招聘作品 (5 プログラム)

*東京ミッドタウン・カンファレンスと東京都現代美術館でもサテライト上映を行います。



©2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

B2. Media Art in the World [上映とプレゼンテーション]

海外のメディア芸術関連のフェスティバルやミュージアムの活動を紹介します。フェスティバル・ディレクターやキュレーターなどによるプレゼンテーションや作品の上映を予定しています。

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ■アイビーム (アメリカ) | ■アヌシー国際アニメーション映画祭 (フランス) * |
| ■アルスエレクトロニカ (オーストリア) * | ■エスパシオ・エンター (スペイン) |
| ■オタワ国際アニメーション映画祭 (カナダ) * | ■コーデッド・カルチャーズ (オーストリア) |
| ■サントラ・イスタンブール (トルコ) * | ■シーグラフ (アメリカ) * |
| ■シーグラフ・アジア (横浜) | ■シカフ (韓国) * |

※「*」は講堂での作品上映を予定しているフェスティバルです。随時 Web サイトにてスケジュールを掲載予定。

C. シンポジウム

C1. 受賞者シンポジウム

第13回文化庁メディア芸術祭の受賞者と審査委員による「受賞者シンポジウム」。受賞作品が創り出された背景やコンセプト、制作秘話などを紹介するとともに、今年度の芸術祭を部門ごとに総括します。当日先着順にて250名までご入場いただけます(入場無料)。

■アート部門受賞者シンポジウム

日時：2月5日(金) 18:00～19:30

出演：David BOWEN (大賞『growth modeling device』)

Lawrence MALSTAF (優秀賞『Nemo Obdervatorium』)

和田 永 (優秀賞『Braun Tube Jazz Band』)

佐藤 卓 (アート部門 主査/グラフィックデザイナー)

四方 幸子 (アート部門 審査委員/メディアアート・キュレーター)

■エンターテインメント部門受賞者シンポジウム

日時：2月13日(土) 13:00～14:30

出演：ナカムラ マギコ、中村 将良 (大賞『日々の音色』)

田中 秀幸 (優秀賞『電気グルーヴ/Fake It!』)

松山 洋 (優秀賞『NARUTO ナルト ナルティメットストーム』)

河津 秋敏 (エンターテインメント部門 主査/ゲームデザイナー)

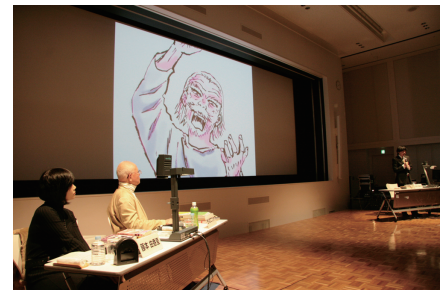
榎山 寛 (エンターテインメント部門 審査委員/コンテンツ・プロデューサー)

- アニメーション部門受賞者シンポジウム
日時：2月7日（日）16：00～17：30
出演：細田 守（大賞『サマーウォーズ』）
橘 正紀（優秀賞『東京マグニチュード8.0』）
鈴木 伸一（アニメーション部門 主査 / アニメーション監督）

- マンガ部門受賞者シンポジウム
日時：2月11日（木・祝）13：00～14：30
出演：幸村 誠（大賞『ヴィンランド・サガ』）
山田 芳裕（優秀賞『へうげもの』）
しりあがり寿（マンガ部門主査 / マンガ家）
細萱 敦（マンガ部門審査委員 / 東京工芸大学准教授）

- 功労賞受賞者シンポジウム
日時：2月5日（金）15：00～16：30
出演：宮本 茂（功労賞 / ゲームクリエイター）
河津 秋敏（エンターテインメント部門主査 / ゲームデザイナー）

- 特別功労賞受賞者シンポジウム
日時：2月11日（木・祝）16：00～17：30
出演：氷川 竜介（アニメ評論家）
りんたろう ほか



昨年のシンポジウムの様子

C2. テーマシンポジウム

メインテーマは「メディア芸術とは何か?」。変化し続けるメディア芸術を、アーティスト、テクノロジスト、キュレーターらが多様な切り口で語り合います。詳細は1月に公開予定です。

- マンガとアートが出会うとき 日時：2月3日（水）16：00～17：30
- 新たな文化を生み出すために 日時：2月4日（木）16：00～17：30
- 先端技術ショーケース 日時：2月8日（月）16：00～17：30
- メディア芸術とミュージアム 日時：2月12日（金）18：00～19：30
- メディアとは? 芸術とは? 日時：2月14日（日）13：30～15：00

D. プレゼンテーション

2月3日（水）～14日（日）会場内プレゼンテーションゾーン

今回から、受賞作品展会場内にプレゼンテーションゾーンを設置し、各部門の受賞者や海外フェスティバルのディレクターたちによるプレゼンテーション、メディア芸術祭の国内・海外での展開や活動についてのレポートなどを連日予定しています。

- 受賞者プレゼンテーション
各部門の受賞者によるプレゼンテーション。受賞作品制作にまつわるエピソードや、今後の活動などについて、作者自身から聞くことができる貴重な機会です。
- フェスティバルプレゼンテーション
アートやテクノロジー、デジタルカルチャーに焦点を当てている様々な海外フェスティバルのディレクターによるプレゼンテーション。
- テーマプレゼンテーション
メディア芸術とその歴史、アートとエンターテインメント、テクノロジーなど様々なテーマの元に、審査委員ほかによるプレゼンテーション。
- レポートプレゼンテーション
メディア芸術祭の海外・国内における活動と展開についてのプレゼンテーション。
- その他
同時開催イベント（学生CGコンテスト、先端技術ショーケース、サイバーアーツジャパン）からのプレゼンテーション。

学生 MV コラボレーション

今回で6回目となる学生を対象にしたワークショップ。参加学生は共同でデジタルビデオやノンリニア編集を駆使して一本のMVを完成させます。

日時：2月8日(月)～2月10日(水) *オリエンテーション、撮影と編集、発表会を予定。

発表会：2月11日(木)

講師：寺井弘典(映像クリエイター)、木津裕史(ディレクター・CG作家・音響制作)

楽曲：Omodaka

F. その他

2月2日(火)～3月22日(月) 東京都現代美術館

サイバーアーツジャパン アルスエレクトロニカの30年

アルスエレクトロニカ30周年を記念した、文化庁メディア芸術祭受賞者を含む歴代日本人作家のメディアアート特集展。富田勲、坂本龍一×岩井俊雄、河口洋一郎、明和電機、八谷和彦、鈴木康広らの貴重な記録映像+作品展示や、宇宙芸術など新領域を提案。あわせて井上雄彦によるエントランス・スペース・プロジェクト、山口勝弘ら先駆者の実験工房特集展示も開催。文化庁メディア芸術祭の協賛事業として開催されます。

[主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館]



日時：2月2日(火)～3月22日(月) 会場：東京都現代美術館(東京・木場)

*展示内容や、出演者、スケジュール等は現在計画中のものです。予告なく変更になることもありますので、予めご了承ください。
*最新情報はWebサイト(<http://plaza.bunka.go.jp/>)で更新いたしますので、ご参照ください。

贈呈式・祝賀会のご案内

- 贈呈式 2月2日(火) 18:00～19:00 東京ミッドタウン ミッドタウンホールB
- 祝賀会 2月2日(火) 19:15～21:00 東京ミッドタウン ミッドタウンホールA
- 内覧会 2月2日(火) 16:00～19:00 国立新美術館 企画展示室2E

*贈呈式・祝賀会・内覧会は、受賞者や審査委員をはじめ、ご招待者のみのご案内です。一般の方は入場できませんので、ご了承ください。

プレス向け内覧会および説明会

報道関係者の皆様に上記内覧会の前に作品をご覧いただく時間を設けております。解説を交えた展示会場の簡単なツアーを予定しています。参加希望の方は別紙申込書にてお申し込みください。

- 日時：2月2日(火) 15:00～16:00
- 場所：国立新美術館 企画展示室2E内 プレゼンテーションゾーン
- 受付：企画展示室2E入り口受付にて 14:45～

●当日取材をご希望される方は、こちらの申込書にてお願いいたします。

申込先 FAX：03-3564-5238

文化庁メディア芸術祭事務局 行

第13回 文化庁メディア芸術祭 取材申込書

取材を希望されるものにチェックしてください。

- | | |
|--|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 贈呈式・祝賀会（受付開始 17：00～） | 2月2日（火）18：00～21：00 |
| <input type="checkbox"/> プレス向け内覧会（受付開始 14：45～） | 2月2日（火）15：00～16：00 |
| <input type="checkbox"/> 内覧会 | 2月2日（火）16：00～19：00 |
| <input type="checkbox"/> 学生CGコンテスト表彰式 | 2月6日（土）11：00～12：00 |
| <input type="checkbox"/> シンポジウム [] | [] |
| | [] |
| | ※ご取材になりたいシンポジウム名をお書き下さい。 |
| <input type="checkbox"/> その他 [] | [] |

※会期中の展覧会への取材につきましては、会期時間内の制限はございませんが、事前にご一報いただきますようお願い申し上げます。

■ 御社名

■ 媒体名

■ ご芳名

■ ご同伴者名（合計 名）

■ 持ち込み機材 スチールカメラ [] 台 ビデオカメラ [] 台
 その他 []

■ ご住所

■ TEL

■ FAX

■ 携帯

■ E-Mail
